

# 雨沢ツツク今季2勝目

## 自らアタック大差つける

自転車  
JPT第19戦

市の前町周辺周回コース(全長88・6キロ)12・6キロ7周10・4キロで行い、下野市出身で都宮ブリッツェンの雨沢が優勝、今季2勝目を挙げた。チームとして

は第12戦大田原クリテリウム以来の3勝目。レースは序盤からアタ

ックの応酬となった。雨にまで絞ると、さらに最沢は4周目にアタックを仕掛けて先頭集団を5人、後は独走状態を築き、2

位に1分21秒の大差をついた。那須アライゼン(高岡直哉)の10位が最高位だった。

次戦は14、15の両日、大分市で「おおいたこいの道クリテリウム」をおいたサイクルロードレースの2連戦を行う。

▽P1(88・6キロ) ①雨沢明(宇都宮ブリッツェン)2時間37分30秒 ②土井豊広(マトリック)2時間38分30秒 ③スワイタ(同)2時間38分30秒 ④佐野誠哉(同)2時間38分30秒 ⑤飯野晋行(宇都宮ブリッツェン)2時間38分30秒

⑥那須アライゼン(高岡直哉)2時間40分30秒 ⑦那須アライゼン(高岡直哉)2時間40分30秒 ⑧那須アライゼン(高岡直哉)2時間40分30秒 ⑨那須アライゼン(高岡直哉)2時間40分30秒 ⑩那須アライゼン(高岡直哉)2時間40分30秒



独走で今季2勝目を挙げた宇都宮ブリッツェンの雨沢。石川県輪島市、小森信道さん撮影



世界にもまれ、ひとむけな男が久々の国内レースで成長を見せつけた。

宇都宮ブリッツェンの雨沢が2位に1分21秒の大差をつけて独走優勝。「モチベーションもコンディションも完璧とは言えない。それでも勝たないといけないと思った」。クールに表彰台の中央をかみしめた。

コース最大の難所は、山岳賞ポイント地点に向かう上り坂。スタート地点との標高差は200メートルあり、周回を重ねるごとに人数が絞られた。「自分が仕掛ければ他の選手の脚を削れる。きついレースがしたかった」。全体のペースが落ちないよう、あえて難所で攻勢を繰り返した。先頭集団が5人ほどになった4周目に強烈なアタック。さらに最終周にペースアップすると、その背中を追える者はいなかった。「心配していたが、勝負どころで落ち着い

### 雨沢 世界の経験 結果で示す

「何も通用しない」と知ったからこそ、帰国後すぐにペダルを踏んだ。手心はまだまだ。だが、国内復帰レースで堂々の独走を見せつけた。「残りのレースは全部勝つ。勝ってチームに恩返ししたい」。勢いはこれから加速する。

(二谷千寿)

2時間38分30秒 高岡直哉(那須アライゼン) 2時間40分30秒 那須アライゼン(高岡直哉) 2時間40分30秒 那須アライゼン(高岡直哉) 2時間40分30秒 那須アライゼン(高岡直哉) 2時間40分30秒 那須アライゼン(高岡直哉) 2時間40分30秒